

- ① 所属名：山形県立保健医療大学（やまがたけんりつほけんいりょうだいがく）
- ② 協会会員番号：1177
- ③ 氏名：藤井浩美（ふじいひろみ）
- ④ 所属県士会：山形県作業療法士会
- ⑤ タイトル：野田村と普代村
- ⑥ 本文：

夏季休暇を利用して、野田村と普代村へ行ってきました。この二つの村は、太平洋に面した岩手県北部にあります。私は、26 年前から毎年この地域を訪れております。夏には、人々が野田村の十府ヶ浦海岸へ集まります。その海岸線はとても美しく、野田の砂祭りは夏の風物詩でした。45 号線の十府ヶ浦海岸沿いには、磯ラーメンの美味しい食堂があり、美しい松並木もありました。

他方、普代村には、住宅街の外側に大きな防波堤があります。その防波堤は不気味なほど大きなものです。そして、その防波堤を抜けると、美しい砂浜のキャンプ場がありました。その先の普代港には、美味しい魚料理のお店がありました。私たち家族は、野田の海岸で水遊びをし、普代のキャンプ場でバーベキューをして楽しみました。それは楽しい記憶です。

しかしながら、今や野田村の美しい海岸、美しい松並木や美味しい食堂は、無くなってしまいました。もちろん、普代村の美しい砂浜のキャンプ場や魚介類の美味しいレストランもまた無くなってしまいました。野田村では、多くの住民が津波によって亡くなりました。私たちは、その津波の爪痕を目撃してきました。とても悲しく、空しいと同時に、自然の脅威を痛感しました。一方、普代村の防波堤が住民を救ったことを知り、不気味だった防波堤が頼もしく思えました。人間の英知が自然の脅威に勝ったのです。

私たちは、初めて久慈市の久喜地区を訪れました。この地域は、約 50 年前のチリ地震で発生した津波によって沢山の犠牲を出しました。その後、人々は、山間の高台に移住しました。そして、険しい山間の道路を下って海の仕事へ向かうのです。今回の東日本大震災では、ほとんど被災しなかったようです。今回の訪問は人々が自然とともに生きる方法を教えてくれました。そして、同時に「畏敬の念」を体験しました。

平成 23 年 8 月 19 日